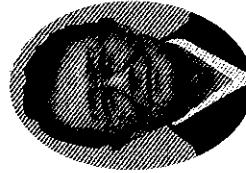
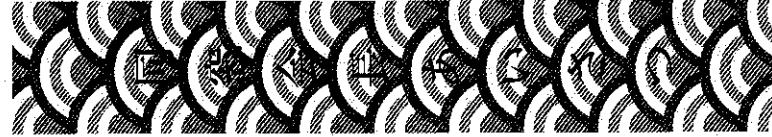


# 大垣真宗学院 同窓会報 第12号

発行日：2001年1月29日  
発行場所：岐阜市伝馬町 大垣真宗学院  
発行部数：200部  
電話番号：0584-23-3362  
郵便番号：500-0007  
郵便局名：大垣郵便局  
郵便番号：500-0007  
郵便番号：500-0007



同窓会長 岐玉 俊雄

大垣真宗学院同窓会員の皆様には、益々仏法ご聴聞の事とお慶び申し上げます。

さて、本年の学院同窓会総会は六月八日、大垣真宗学院呼応学舎にて開催され、お陰様で全ての議案を全会一致で承認を頂きましたこと、以下にご報告申し上げます。

続いて学院の指導主任補であり大谷中学・高等学校長である飯山等先生から「受用と成熟」の講題で特別講義が行われ、樹木希林さんの言葉や「觀經疏三心积」等の言葉をひいて、分かり易くお話し頂きました。その後に行われた懇親会では、お互いのこれまでの道のりや現状について大いに語りあい、積もる話にも華が咲いたことでした。

総会には会員三十八名、先生四名計四十二名のご出席をいただき、遠くは茨城県や兵庫県からご参加もあり、役員一同感激いたしました。また、現在、夏期集中コースに在院生の中には、遠く青森県、兵庫県、徳島県等から一ヶ月間もホテルに宿泊しておられることが、その理由が「この様なコースは他の学院には無いので!」とのことで聞き、心強く感じたとともに、その熱意に敬服しました。

今後も同窓会としては、皆様の聞法のご縁作りの一端を担えれば、との思いで活動してゆく所存です。引き続きご理解ご協力並びにご意見、ご指導を賜わりますよう、お願い申し上げます。

# 学院の動き

## ☆二〇一九年度新入生を迎える

本年度は、土曜昼間コースに十名、夏期集中コースに三名の新入生を迎えました。教区別では、大垣六名、長浜一名、岐阜二名、名古屋三名、四国一名です。十月現在、夏期集中十六名、土曜昼間十二名、土曜夜間十二名が在学されております。



上山研修で在院生とともに

# 同窓会の動き

## ☆新卒業生十五人が同窓会に入会

二〇一八年度は土曜昼間コース十二人、夏期集中コース三人の計十五人が卒業され同時に同窓会へご入会いただきました。今後とも、同窓会活動にご協力よろしくお願ひいたします。



新しく同窓会員となられたのは次のみなさんです。(順不同、敬称略)

▽ 大垣教区 平塚維人(五組、速入寺)、岡田大雅(六組、康安寺)、桑原典子(十組、真照寺)、山村泰昭(十二組、廣榮寺)、三輪正樹(十二組、遍得寺)、正山薫(十七組、西源寺)、永木宏子(十七組、西願寺)、中嶋香(十七組、蓮休寺) ▽ 三条教区 安富成巳(二十一組、光濟寺) ▽ 三重教区 佐々木佑悟(長島組、信行寺) ▽ 長浜教区 黒田千鶴(十三組、光運寺)、寺義文昭(十七組、淨泉寺)、河村道明(十九組、常善寺)、川那部茂子二十四組、淨教寺) ▽ 京都教区 藤野薫至(近江第七組、淨念寺)

## ☆卒業生より寄付

本年度土曜昼間コース卒業生の皆さんから、電気式ヒーター一台が学院に寄贈されました。写真。冬の朝の授業は寒いため、大いに活躍してくれそうですね。ありがとうございました。



## ☆記念冊子発行事業の御礼

昨年の学院創立・同窓会発足記念大会での長谷正當先生の講演録「親鸞の往生と回向の思想」は七五〇部発行しました。同窓生、在院生、関係各位に配布し、残部を一般にも頒布したところ、「文化時報」に取り上げられたこともあり、思ひもかけない遠方の方からも多数のご購入や、お問合せをいただき、早々にすべて頒布しました。限られた予算の中でしだが記念事業を無事に完了させていただき、まことにありがとうございました。

長谷先生には、同窓の縁で発行にも快く賛同していただき、さらにつ多忙の中にもかかわらず、校正までしていただきましたこと、篤く感謝申し上げます。記念大会開催の確かな足跡になつたと、我々役員一同、喜んでおります。

長浜教区の同窓生グループでは、この冊子をテキストにして勉強会が行われると聞いておりますし、他からも、講義は聞くことができなかつたけれども読ませていただきとても勉強になつた、とのお声も届いております。一方で、在庫切れでご要望に応えられなかつた方もあり、ここにお詫びを申しあげます。

(同窓会長 犀玉)

## ☆第十二回 同窓会総会の開催

六月八日、呼応学舎二階の研修室で開催され、会員と先生方計四十二名に出席いただきました。二〇一八年度の事業報告、決算報告、二〇一九年度の事業計画案、予算案について、いずれもご承認いただきました。ありがとうございました。

総会後の特別講義は、「受用と成熟」と題して飯山先生にお話しいただきました(要旨は五十九頁をご覧ください)。長寿社会に生きる私たちの心に染み入る内容で、眞宗の学びへの意欲を新た

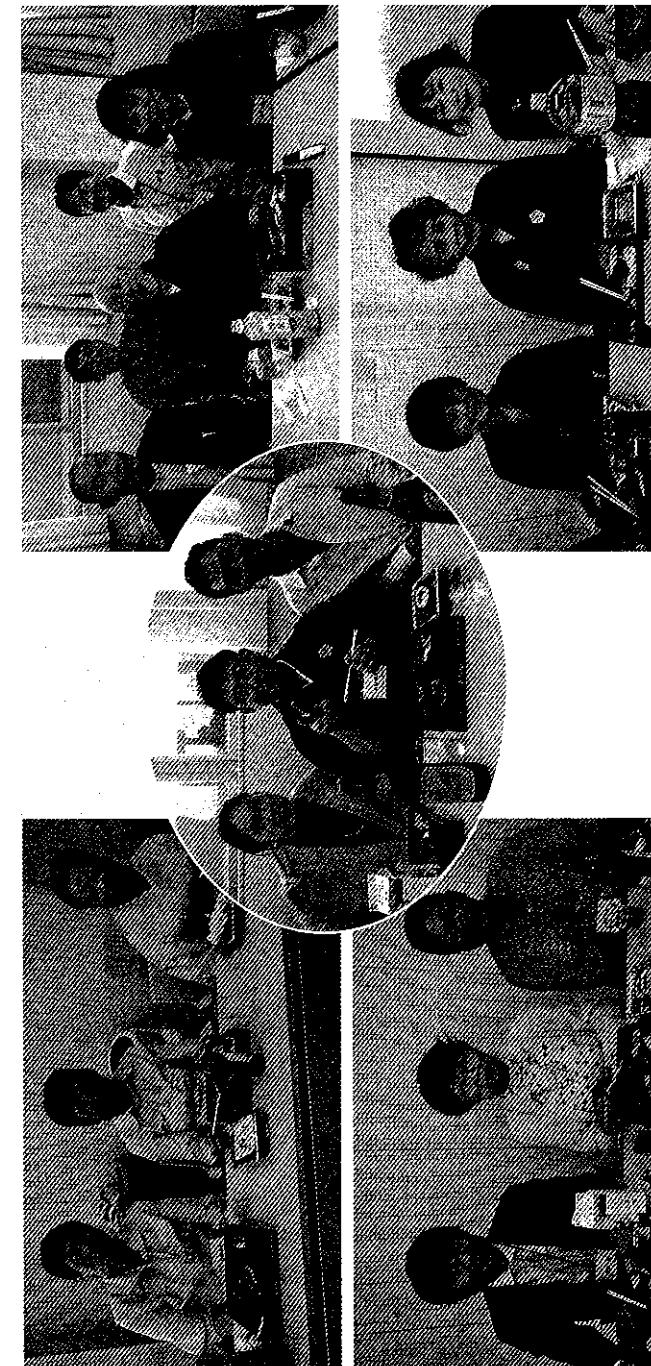
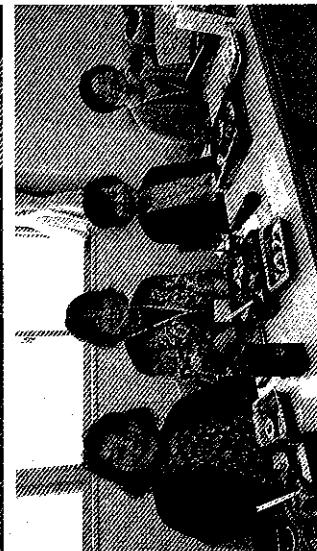
にしました。

総会終了後は、懇親会が開催され、各地から四十名が参加され、毎年出席される方、久しぶりに参加された方から近況報告などもあり、和氣あいあいとした和やかな時間となりました。

私（熊谷裕子、一〇一六年卒、大垣）は今年も義母の弘子と参加させていただきました。恥ずかしながら過去には離れて座りたい期間もありましたが、今年は隣に座つて同じ講義を拝聴することや、懇親会で他愛もない話をすることが心から嬉しく、有り難く思えました。

義母は、私にとって夫の母であるとともに、同じ学院で学んだ先輩であり、同じ寺に身を置く者として御縁をいたいた先輩であると再確認しました。同窓会は、私にとって自分の心の確認の機会でもあるようです。

来年の総会は六月六日（土）を予定しております。上山奉仕ともども、ぜひご参加ください。



### 『鷹橋賢由先生からの寄稿』

五辻文昭先生、柏尾一道先生とインドへ

大垣真宗学院で、永く指導を勤めていたいた五辻、柏尾両氏と二人だけで仏跡参拝をしたことがあります。一〇〇九年のことでした。

（上の写真は右が五辻氏、左が柏尾氏、中が最年長の鷹橋。）

二〇一八年三月に五辻氏、同

五月に柏尾氏を相次いで亡くし

ました。心おきなく語り、飲み

交わした二人でした。背景は釈

尊が荼毘に付されたクシナガラのラマバル塚で

す。私にとってここは、一九八三年正月に安田

理深先生のお骨を胸に、仲野良俊先生のお供で、

はじめてインドを訪れ、納骨した仏跡であります。

一〇一九年一月、大垣教区のみならず全国各地から十八人の同行（次頁の原水さんも同行）

と共に参拝し、五辻・柏尾両氏の納骨をしてき

ました。

「鷹橋さんのお骨は間違いない一人で納めに

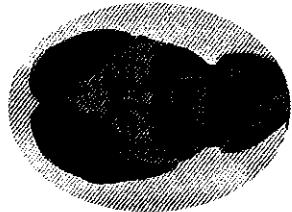
くるからね」と何度も約束してくれていたこと

が思い出され、止まらない涙とともに世の無常

を味わいました。



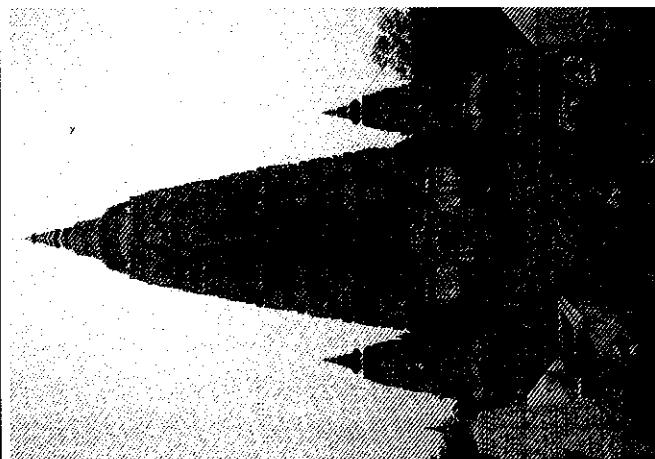
## 同窓生からの寄稿



原水祐文

一九九七年卒（山陽）

真宗学院を卒業して二〇年以上が経ちました。このたび初めて同窓会に参加させていただきました。きっかけは、鷹橋賀由先生が企画された「祇尊七大聖地参拝 インド・ネパール仏跡参拝の旅」に、妻と息子と一緒に参加したことです。二〇一九年一月二十二日より三十一日の日程で、日本では絶対に味わう事の出来ない大変貴重な体験をすることが出来ました。



バガンの大塔

「仏陀はスジャータからの乳粥により健康を取り戻し、悟りを開かれた」と子供の頃、父親から

よく聞いていました。いつかその場に行きたいと子供心に思っていました。やさしく、あまり乳粥に大変感動しました。

スジャータ村のストウーパ周辺には小学生くらいの少女達が「アミタソ、アミタソ」（アミタソとはおそらく南無阿弥陀仏と言うことで、日本人



の氣を引いているとガイドさんが言っています。と声をかけて物乞いをする姿があります。印度の子どもたちが行く先々での暮らしは、スマホ片手におしゃれな服を着ている人もいれば、傷たらけの体にボロボロの眼で物乞いをする人。足にしがみついて物をねだる小さな子供がいるすぐ横では、きれいな制服姿で学校に通う子供達が入り乱れていました。その貧富の差に衝撃を受けました。

また、四、五歳の子供が物乞いをして得たものを十歳くらいの子が取り上げ、今度は大人がその子から力尽くで奪っていく姿を目の当たりにしました。初めての光景に正直戸惑いつつも、見て見ぬふりしか出来ませんでした。「インドでは見返りのない親切は絶対にない。数年前にタイの富裕層がお金や物をばらまいたから物乞いがすごく増えた。むやみにあげるのはよくない」と最初にガ

イドさんから語がありました。皆さん、この言葉をどう受け止めますか？

一千五百年前、仏陀の生きた時代の生活はどうだったのだろうか？もし、インドで大乗仏教が広まっていたなら、今のインドはまだ違ったのだろうか？もし、自分がここで生まれていたなら、どのような思いでどのように生きていたのだろうか？



靈巣山の山頂にて

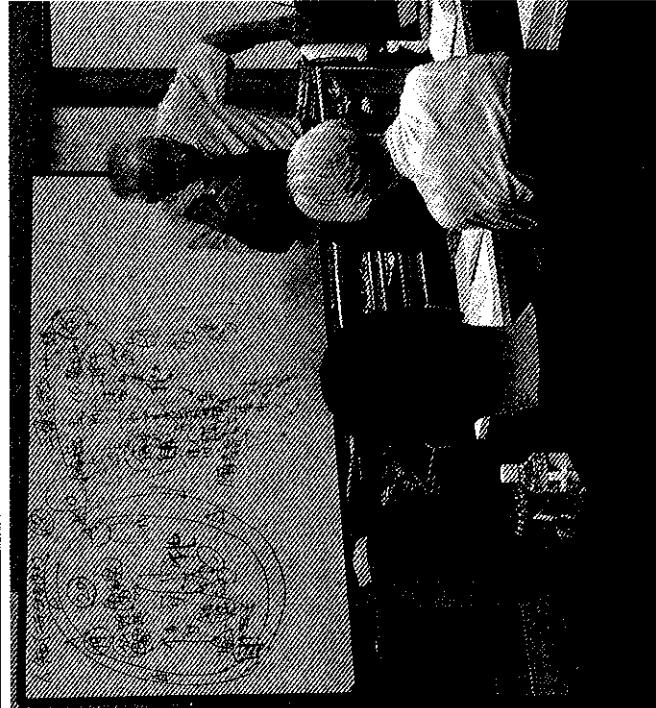
# 同窓会からのお知らせ

## ◇上山研修に参加しました

本年は八月二十九日～三十一日、学院上山研修に併せて参加しました。

初日前半は聖跡巡拝として比叡山延暦寺、知恩院をまわりました。延暦寺は国宝・根本中堂が大規模修復工事中で、素屋根から屋根工事の様子などを見学しました。

同朋会館では、昨年に続いて米国バトクリーの毎田仏教センター所長、羽田信生先生から、「米国で真宗を学ぶ—親鸞聖人の『三願転入』と米国人の真宗理解」ということでご講義いただきました。

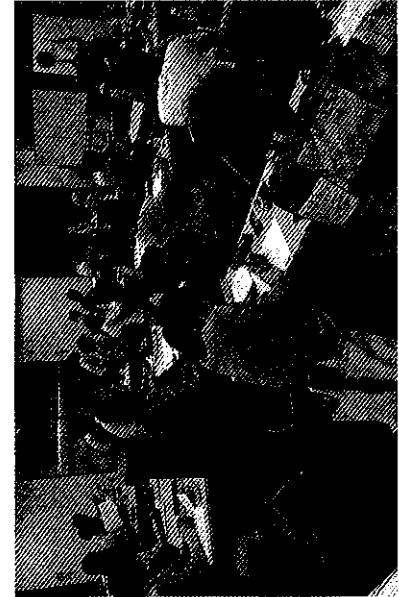


今回は、はじめに先生の仏教との出会いについてお話しidadきました。先生は一九四六年、長野市の善光寺近くで生まれ、東京外語大で学ぶ中で、すでに故人となつておられた毎田周一師＝金沢市出身、仏教思想家、詩人＝の言葉と出会い、仏教の世界にふれたということでした。

大学卒業後、「毎田周一全集」編纂にあたり、完了後に二十五歳で渡米。曉鳥敏師の弟子が創立したシカゴ仏教会で学び、UISCONSHIN大学院で善導の研究で学位を取得、交換研究生で大谷大で二年間学んだ際、安田理深師に出遇われたということです。

さらに毎田師の伝記を作成するため、一九九五年ごろより日本各地をまわるうち、毎田師に師事されていたサン・ドラッグ社長の多田幸正氏と知り合い、二十数年前、既成教団に属さない在家の聞法道場として毎田仏教センターをバトクリーに開所されたということでした。

米国では日本のように家を介して宗教と個人がつながっておらず、センターでは個人の信仰の確立を目指して活動されています。活多様な人種、文化、価値観の中、英語で布教する困難さを乗り越え、現地で念佛者を生み出し続けている情熱がひしひしと伝わる講義でした。



◇ 総会において、前年度の事業報告と決算報告、会計の監査報告、本年度の事業計画案と予算案をご承認いたきました。同窓会の収入は終身会費のみであり、経費削減に努めておりますが、先細り傾向です。終身会費（一万元）未納の方は、是非ともご協力をお願いいたします。

2018年度収支決算概要	
収入	前年度繰越金 1,598,959
	終身会費 150,000
	総会参加費 180,000
助成金	0
雑収入	10
収入計	1,928,969
支出	会議費 210,000
	事業費 85,000
	事務運営費等 65,000
次年度繰越金	1,545,969
支出計	1,928,969

2019年度予算案概要	
収入	前年度繰越金 1,598,959
	終身会費 150,000
	総会参加費 180,000
助成金	0
雑収入	10
収入計	2,100,000
支出	会議費 210,000
	事業費 85,000
	事務運営費等 65,000
次年度繰越金	1,545,969
支出計	1,928,969

## 第13回 同窓会総会のご案内

二〇二〇年六月六日（土）、例年通り、大垣真宗学院・呼応学舎にて開催する予定です。詳細は決定次第ご案内いたしますので、ぜひご予定下さい。また、来年度の上山研修は八月二十九日～三十一日です。講師は今年と同じく、毎田仏教センターの羽田信生先生にご講義いただく予定です。こちらもご参加お待ちしています。